役者評判記

チ13
3849
84

子13
3849
84

子多13
699
15

門 千 13
洋巻

後者早料理　芸者宴
東大坂の老母病
四見物す　その日の客人
奥羽屋にて逢ひ
一座の餐応
料理献立
口明の祝宴
奥鳥殻の洞燭
後者義理道の出勤

90
84

五味まくの味へ
舞楽年功の次へ
陰加減を受へ
正名と那と仕丁の習
上下正まと
時代と世話を仕る上
下と上戸の著へ
取あへず先実の強
芸者幇間の老へ

京大阪大芸者
京阪線
小側芸者 役者
門
吉側芸者 名代
大坂乃妓班
中の芸者 名代

○又芸妓名を列ぬるは
△は平人高時絵の如でムり

▲極上上吉 中村歌右衛門
極上上吉 坂東三津五郎
極上上吉 坂東三津五郎 小側
立役名代三福対▲
上上上吉 市川団蔵
上上吉 坂東彦三郎 中芝
上上吉 坂東彦三郎 小側

上上吉　大うり尚せの外を引　勇
上上吉　成尾三男さ帥　市ごろ
上上吉　小川吉さ帥　中村
上上吉　嵐雛三帥　△
上上吉　中山一雛　△
上上吉　中村歌七け　△
上上吉　富士松山千帥　中村
上上吉　松本幸四郎　中村
上上吉　市川新蔵　市ごろ
上上上　沢村源之帥　中村

上上　市川鹿蔵　中村
上上　大谷友右衛門　中村
上上　片岡仁左衛門　中村
上上　嵐吉三郎　△
上上　市川高麗蔵　中村
上上　坂東三津五郎　中村
上上　中村芝翫　中村
上上　片岡我童　中村
上上　嵐雛助　中村

あいくちようあつそうはこい物

上上 嵐吉三郎 ㊀師匠のまね上手 ㊁銀もん

上上 濱尾八百蔵 ㊀中山文七ゆかり ㊁濱尾家三幕目

上上 市川猿弥 ㊀板東のいろくはなやか ㊁

上上 嵐璃寛 ㊀板東彌十郎ゆかり ㊁

上上 嵐猿治郎 ㊀板東三津五郎ゆかり ㊁

上上 嵐福寿 ㊀板東秀調ゆかり ㊁

上上 嵐璃寛 ㊀板東彌十郎ゆかり ㊁

上上 嵐猿治郎 ㊀板東三津五郎ゆかり ㊁

上上 嵐福寿 ㊀板東秀調ゆかり ㊁

上上 濱尾八百蔵 ㊀中山文七ゆかり ㊁濱尾家三幕目

上上 市川猿弥 ㊀板東のいろくはなやか ㊁

上上 嵐吉三郎 ㊀師匠のまね上手 ㊁銀もん

切上上吉　▲実悪敵役之部

上上吉　成尾三左衛門　小

老人の役めを能くつとめ其外実悪共に上手

上上吉　大谷友右衛門　小

実悪ともに上手

上上吉　嵐冠三郎　小

かつこうよき上手

上上吉　桐山紋弥　中

のびやかにてよき上手

上上吉　市川家三郎　小

いのびやかにてよき上手

上上吉　市川門之助　小

みくてのある上手

上上吉　片岡小六郎　中

のそつとしてよき上手

上上吉　嵐金次　小

敵役の内ひねくりたる上手

上上吉　坂東岡三郎　小

さびのある上手

上上吉　市川市蔵　中

敵役の内ひねくりたる上手

上上吉　中村東蔵　小

ここが別れくそこをあのへんの仕ぐさ

上上吉　坂東三津五郎　小

三津五郎ぶりの敵役

上上吉　中村熊吉　小

きつとしたる上手

上上吉　桐沢権之丞　小

こめくまでの上手

上上吉　浅尾政次郎　小

すぐにむくつけなる上手

上上吉　浅尾政次郎　中

立役よりの上手

上上吉　市川三河蔵　中

のびやかにてよき上手

上上吉　坂東三津五郎　小

いかにもうめくしてよき上手

上上吉　浜村蔵之助　中

時代武敵役

上上吉　▲実悪敵役之部

切上上吉　成尾三左衛門　小

老人の役めを能くつとめ其外実悪共に上手

上上吉　大谷友右衛門　小

実悪ともに上手

上上吉　嵐冠三郎　小

かつこうよき上手

上上吉　桐山紋弥　中

のびやかにてよき上手

上上吉　市川家三郎　小

いのびやかにてよき上手

上上吉　市川門之助　小

みくてのある上手

上上吉　片岡小六郎　中

のそつとしてよき上手

上上吉　嵐金次　小

敵役の内ひねくりたる上手

上上吉　坂東岡三郎　小

さびのある上手

上上吉　市川市蔵　中

上上
上上

上上吉　浜村岡安神社
上上吉　嵐山三船神社
上上吉　嵐山大井神社
上上吉　嵐小川安産
上上吉　嵐山かうん
上上吉　嵐山陽光
上上吉　嵐山陽雲
上上吉　阿岡稲荷
上上吉　浜村神社
上上吉　滝尾観音

上上　嵐小川
上上　浜村神社
上上　阿岡稲荷
上上　浜村神社
上上　嵐山三船神社
上上　浜村神社
上上　滝尾観音
上上　嵐雑三船
上上　嵐山金刀比羅
上上　浜村神社
上上　桐山生涯
上上　浜村福二郎

上

今の芝居の始まる前に出てするおどりの曲（くんぐ）

上キ上吉　市川縣下神
左　極上上吉　　（注）出つゝ西ゞそのあひの貝ひらく意
　　岡山縣
右　極上上吉　　（注）お牡多の女で陶のあたりの方言
　　（注）もぐ

▲雛の飾物

小側産

一弦　富士田千歳一　常陸深芝富士夫
一　湖出門十郎一　常陸深芝武統
一　湖出七十郎一　仲助　一弦　芳村伊予能
三弦　杵屋佐久　一　田中吉善　一　富士田吉蔵
一　田中吉三郎一　杵屋佐吉　一　芳村伊之助
一　田中岩三郎三弦　杵屋吉之助　一　杵屋徳三郎
一　杵屋徳三郎一　常陸深芝雨夫

小側産

一弦　湖出八十郎一　仲助　一弦　芳村伊予能
三弦　杵屋佐久　一　田中吉善　一　富士田吉蔵
一　湖出門十郎一　常陸深芝武統
一　湖出七十郎一　常陸深芝富士夫
一　田中吉三郎一　杵屋佐吉　一　芳村伊之助
一　田中岩三郎三弦　杵屋吉之助　一　杵屋徳三郎
一　杵屋徳三郎一　常陸深芝雨夫
一　大和川元一　常陸深芝富士夫
一　湖出門十郎一　仲助　一弦　芳村伊予能
三弦　杵屋佐久　一　田中吉善　一　富士田吉蔵
一　湖出七十郎一　常陸深芝武統

中村常吉 小川行之助
中村宇七 小川喜兵衛
溝尻千吉 山本源助
苅田孫平 坂田佐市
中村剛三郎 宮下源八
苅田定吉 坂田善之助
高折平兵衛 山村安兵衛
苅相談吉 中村義平
折居正六 折井武之夫
小川庄吉 折井政之丞
生駒助九郎 金沢吉之丞

▲組吉例

近藤源助

小側座

宗川新之助
宗川粂助
金沢清遠

西側座

宗河渡助
宗河市助
宗河力助
宗河晴助
樋田一学
樋井五七

中の座

金沢通政
近井多助
金沢金助
金沢孫左衛
宗河粂助
近井徳助
宗河晴助

千秋楽 宗岡

〈ちよくおもむきせゆえよつて
文政十年己亥八月朔日　住吉
神社社司

野持日経

一昨日御うけ書を以て申上候通
愚父儀去る廿三日夜より病気
非常に差重り候に付御会席
御断申上候処御心配被成下
御使者を以て御尋被下候
御厚志の程忝く存候
扨又御うけ書の内御面会
御願申上候とのおぼしめしの
趣承知仕候尤愚父儀病気
故の義ゆえ御ゆるし下さるべく
候
文政十年己亥九月廿七日　住吉
顕覚報源瑞寛信士
寺八小橋養全御再例　宝暦義院

[欠]十上下ある儀の
会合のことを後世に
残さんとの志は二の
外なく候ゆえの義
[欠]

あのおさまり渡りいたし候
くいりぐちなおあり
新地芸者[欠]動のなど多
うち木町押二張より呼び
新改御抱御抱新改の
先づ絶利なく初日の
八月二日より
[欠]新改抱初抱ゆえ
抱主方のあくまでも
おのの名ざしなき
[ヒノキ]の抱芸
[欠]抱初のつぎ
兄弟ぶんおよびの
抱分の通り
[欠]抱初
[欠]抱ゆえ
[ヒノキ]抱
[ヒノキ]の

至極上吉　山風楓二帖　柱名

[朝]右の色を給ふ　[朝]香附の人気を
おりべ渡るもれ初りぐの垂れ初めぞ
[朝]ゆかしき今ハ[大どの]ものぞ
[朝]ゆかしき今ハ[大どの]ものぞ
[朝]ゆかしき今ハ[大どの]もの

文政乙未
壬午正月吉旦

左之通
▲梅壽堂
中村源左衛門

八文舎自笑
梅枝軒
治寿

毎日のつづき出て初日より数日が経ち
て秀信様の侍たち[東画]二階たち
まちまちの[ヒイキ]ありさまを
あんざ[ヒイキ]そりやあの日の朝
どやうにいのみんのごの朝を
そろうて待たり[ママ]
[ママ]待ちかねたる
ゆふべのこと
ちがひさうふの
殺れ[ママ]
うつたらにこしやく
義の大[ママ]
おりふしさ[ママ]
のんざ殿様の

あんざ[ママ]二段がり
ゆふべのことを
外[ママ]
味の濃切[ママ]
切腹の
ざ[ママ]
するとあの[ママ]
生[ママ]
[ママ]
[ママ]

太平記評判

尾上中村

三澤

渋尾

[illegible]

[illegible]

[illegible]

れどもとうてい
表ざたにはなりません
なんの面目あってか
出ましょう
ただこのままに
もつぎのおらくさを
もつぎのおらくさを
のあすうがつくまでは
込ごもりする
母のおもいやりの仕事
ふとんをかぶって
のうちでだらく
ふたりの
ゆめ

の仕事もよくなりかけ
鬼のように
まって十月ごろから鬼二疋
疲れるので
仕事もよくなり
時ゆえの仕組で
あの子
同様
うなずけどもあの一流
早くあうの
極上書
取おくまの三津屋
こう来
ておく
おそれ
商の注文
水いらず

上二十三

南川圀

[図]

[図]

[図]

外[ク]役のうちのうちのうちの

[illegible]来出勤あり八月下小彩花火興行通り前景気よく開場
後不順天候打続き漸く二日目の夜より雨降出し三日目の夜
[illegible]中止[illegible]

上上吉 [illegible]

[illegible]

上上吉 中山一蝶 △

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上士

上上 ㊀ 浜村源兵衛

[関]東京府下荏原郡大井村大字大井字鮫洲
上上 ㊇ 嵐 吉三郎 △

[関]東京府下荏原郡大井村大字大井字鮫洲
上上 回 市川 市蔵 △

[関]東京府下荏原郡大井村大字大井字鮫洲
上上 ㊇ 伊藤 政吉

嵐寛寿郎

嵐璃寛

文政五年
午正月吉日　作者　船矢
八文字屋
自笑軒
鴛鴦

後者早料理
上の巻終